



飯田高校便り (校長版)

令和5年1月11日

【第14号】

今年も“慰霊の日”をむかえて…。

1月10日、本校では“慰霊の日”です。今から31年前のこの日、当時2年生だった小野寺仁さんが、校内で突然命を奪われるというあってはならない悲しい事件が起こりました。本来、安心安全が保証されているはずの学校で起こった事件、幾年月を経ようとも、仁さんの無念さ、そしてご家族の深い悲しみに思いを馳せるとともに、この事件のことを決して忘れることなく、命の尊さについて考え、行動することが、私たちの責務であると考えています。



当日は、全校放送による「慰霊式」で、学校長の講話、生徒自治会長の慰霊の言葉があり、その後は、『いのちの碑』の前において、県教育委員会、本校職員、ならびに生徒自治会役員が代表して参列し「慰霊式」を催行しました。下の文章は、全校放送による慰霊式での講話です。

平成4年1月10日、本校において、当時高校二年生の小野寺仁さんの尊い命が失われるという大変悲しい出来事が起こりました。今日は、わたくしたちにとって、仁さんのかけがえのない命の重さに痛切な思いを禁じ得ない日です。当時、私は中信地区のある高校に勤務しており、この事件のニュースに接した時には、「まさか母校の飯田高校で…」という身が震えるほどの衝撃を受けたことを、つい最近のこのように思い出します。

本来、安全・安心が何より保証されるべき学校において、前途洋々たる未来が突然奪われた仁さんの無念さ、そして朝いつも通りに「行ってきます」と言って自宅を出たはずなのに無言の帰宅、ご家族の深い悲しみに思いを致すとき、申し上げる言葉も見つからず、いま本校に関わる者の一人として、ただひたすらに、御霊のご冥福をお祈り申し上げるとともに、改めてこのような悲しい事件を繰り返さないという誓いをここに新たにすると所です。

この悲しい事件から今年で31年が経ちます。皆さんのお父さんやお母さんの中には、仁さんと同級生だった方、また仁さんをよく知っている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。言い換えれば、この悲しい事件がなければ、仁さんも親となって自分の子供を本校に通わせて、またご両親は孫の成長を暖かく見守っていらしたかもしれません。この悲しい事件は、そのような未来を一瞬にして奪ってしまったことにもなります。

今日、飯田高等学校に関わるすべての者が、この悲しい事件のことを決して忘れずに、また命の尊さについて深く考えることが、仁さんの御霊をお慰めする唯一のことであると思っております。

また、この悲しい事件を受けて、生徒自治会が出した『高松92宣言』において「規律ある学窓」「反暴力」を誓っています。この『高松92宣言』は生徒手帳52ページに記載してあります。十分わかっていることとは思いますが、今一度ページを開いて、宣言の内容をしっかりと確認してみてください。

国外ではロシアのウクライナ侵攻により、未だに多くの無辜の命が失われ続け、市井の平穏な生活が脅かされ続けています。また、国内に目を転じれば、虐待やいじめなど命を蔑ろにする悲しいニュースを毎日耳にします。そのような状況にあって、私たちは、『高松92宣言』を遵守して、仁さんが見たかったであろう明るく平和な未来のため日々の生活を見つめて、行動していくことがとても大切なことであると強く思います。

私たち全員のまことの思いが仁さんの御霊に届きますように、決意を新たにいたしまして、この日の学校長としての講話といたします。